

令和3年度 東久留米市立 中央中学校

学校評価報告書

<p>学校教育目標</p> <p>人権尊重の精神を基調として、豊かな人間性と社会性を培い、自主・自律・自治の精神に満ち、かつ培った力を存分に表現し、喜びをもって自他共に生きることができる生徒の育成を図る。そのために次の目標を定める。</p>	<p>共に生きる喜びをつかもう</p> <p>○進んで学ぶ</p> <p>○人を思いやる</p> <p>○体力をつける</p> <p>行動目標：自主・自律・自治・表現</p>	<p>教育ビジョン</p> <p>【目指す学校像】</p> <p>【目指す児童・生徒像】</p> <p>【目指す教師像】</p>	<p>○生徒、保護者の人権・安心・安全守られる学校</p> <p>○生徒が日々の教育活動で夢や希望をもって生活できる学校</p> <p>○生徒一人一人に生きる力をほぐむ学校</p> <p>○根拠に基づいて考え、言語等で表現できる生徒</p> <p>○人を大切にし、自律、自治に取り組む生徒</p> <p>○目標をもち、勇気をもって挑戦する生徒</p> <p>○生徒の良さを認め、自ら声をかけ、生徒一人一人を大切に作る教師</p> <p>○常に生徒とともに学び続けようとする教師</p> <p>○チーム中央で情報を共有し課題解決できる教師</p>
<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p> <p>○成果 ●課題</p>		<p>○いじめのない学校づくりに向けて、生徒会活動により生徒主体で実施することができた。</p> <p>○生徒が自己肯定感、自己有用感をもち生活ができるように教職員全体で動めることができた。</p> <p>○教師の授業力向上に向けた研修を進めることができた。</p> <p>●生徒の学習習慣が身に付くように計画表の作成や学級、学年だよりで啓発を行った成果はこれからである。</p> <p>●特別支援学級と通常学級の交流が思うように進んでいない。</p> <p>●不登校生徒の増加が進んでいる。</p>	

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	四つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	(令和5年度までの3年間)	(1年間)	取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みを推進し、生徒の人権が守られ、いじめを許さない学校とする。	生徒会活動として各種委員会においていじめ撲滅の取組を考え活動し、主体的にいじめを発生させない環境をつくる。 ・生活指導連絡会を充実させ、いじめの早期発見と早期指導を組織的に行う体制をつくる。	・週1回生活指導連絡会を行う。いじめや問題行動に関する情報を密に、組織的に解決する。記録を徹底し、事実に基づいた指導を行う。 ・ふれあい月間では校長の講話、生活指導だよりで啓発を行う。	・生徒のアンケートでいじめをゆるさない学校であるの肯定的回答を80%以上とする。 ・問題があったときに学校は解決を行ってくれると回答する生徒、保護者を80%以上とする。	4	・いじめを許さない学校 83.4% ・問題解決する 79.9%	4	・各家庭で、いじめについて話し合い、「いじめはやってはいけない」という意識を高める必要がある。	・道徳の重点項目を「思いやり、感謝」「礼儀」「友情・信頼」「相互理解・寛容」の人の関わりに関することとして取り組む。 ・同じ中央中学校の生徒として絆を深め、互いを尊敬し合い、高め合う集団作りを行う。 ・家庭の語りでの話題となるよう保護者会でアピールを行う。
2	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	自己肯定感・自己有用感の醸成	生徒を褒め、よさを認め、生徒が自信がもてる教育を進める。	多くの活動場面を意図的に設定し、生徒を褒め、よさを認め、生徒が自信をもって活動できる教育を行う。	学校生活のあらゆる場面において、生徒を褒め、よさを認め、普段の生活、面談、キャリアパスポートなどにコメントする。	・生徒アンケートで先生から褒められたり、認められていると肯定的回答を80%以上とする。 ・学校生活やボランティア活動で自分の役割があり、役に立っていると肯定的回答が90%以上とする。	4	・褒められ認められる 82.6% ・役割があり役に立っている 94.6%	4	・同窓会などに行っていじめられたという人に対して、いじめをした人は覚えていない現状がある。いじめを受けた側に立った指導をお願いしたい。	・生徒の自己肯定感、自己有用感を高める教員の関わりを継続して行う。 ・学級、学年の活動においても仲間の良いところを気づいていける関係を大切に作る。 ・学級や学年レクリエーションを企画し笑顔の共有を増やす。
3	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	・生徒会活動、学校行事を通して生徒相互のよりよい人間関係や生徒と教員の信頼関係を築く。 ・人間関係がとれない生徒に焦点をあて、発達特性の理解、集団作りを行う。	・挨拶運動、自主活動、自立活動絆づくりをねらいとした行事の運営を行う。 ・特別支援校内委員会、スクールカウンセラーの助言を活かした学級、学年運営を行う。	生徒が自分で考え、自己決定できるようなかわりを行う。 ・教員からすすんで挨拶をする。困っている生徒の側に立った指導を行う。	・学級が生徒の安心・安全の場所となっていると肯定的な回答を80%以上とする。 ・きまりを守って生活しているという肯定的な回答をする生徒を90%以上とする。 ・すすんで挨拶をすると回答した生徒を80%以上とする。	4	・学校は安心・安全の場 89.6% ・きまりを守る 96.6%	4	・テレビ等で人を「いじる」ことで笑いにつなげる場面が見られる。いじることがいじめにつながると感じる。	・生徒がきまりをつくる側として主体性をもたせ自分たちのきまりとして認識させたい。 ・中央中らしい自治活動ができるよう生徒主体でさらに行事等を行っていく。 ・SNSの適切な活用方法を情報モラル教室で行う。
4	II 学力向上	確かな学力の育成	家庭学習の積極的な展開	・生徒の家庭学習の習慣を定着させる。各学年の家庭学習実施時間を1年生60分以上、2年生90分以上、3年生120分以上と設定し、家庭学習の充実を図る。確かな学力の育成を目標とする。 ・学習困難な生徒に対し質問教室や補充学習の場を有効に活用する。	・各教科や各学年から家庭学習や学習内容を復習することの重要性を十分に伝える課題を出し、毎日1時間以上の家庭学習や復習に取り組むことにより家庭学習の習慣を定着させる。 ・支援が必要な生徒に対し、補充教室を実施する。	・日常の授業において、生徒の家庭学習をしようとする生徒を増やす。 ・定期考査前の学習時間を計画表指導により確保させる。 ・補充教室を週1回または定期考査前に実施する。	生徒アンケートで、各学年の家庭学習実施目標時間に挑戦したとする生徒を70%以上とする。定期考査前では、各学年の目標時間を達成して生徒を70%以上とする。	3	・家庭学習の目標達成 73.0% ・定期考査前調査 74.7%	3	・いじめは不登校につながっているのか。また、いじめの解決はされているのかをしっかりと把握する必要がある。	・学習意欲が高まる授業の改善に取り組む。 ・生徒が学習の目標を設定し、主体的に学ぶ習慣を身に付けさせる。また、学習方法や手順を適切に支援し「できた」という達成感が得られるように取り組む。
5	II 学力向上	確かな学力の育成	ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫	全教員が、一人1台が配置されたタブレット端末やICT機器の活用した授業ができるように推進する。	・タブレット端末の活用方法を先進的に取り組んでいる教員を講師に研修会を行う。 ・全教員が年内1回の活用を図る。タブレット端末を活用し、生徒の主体的な学びにつなげる。	・規範授業による校内研修会を実施し、活用の方法を工夫する。 ・総合的な学習の時間での活用をすすめる。 ・年1回は全教員の70%以上の教員がタブレットを活用した授業を行う。 ・アンケートなど活用をすすめる。	生徒のアンケートで、タブレット端末を活用して意欲が高まったとする回答を60%以上とする。	3	・タブレット活用で意欲が高まった 70.8%	3	・中学生は、保護者に学校の出来事をあまり伝えない。子どもからは、「やっている側は遊んでいるつもり。難しいよね」ということを言っている。人ごとに感じ方が違うことを理解しなければならぬ。	・「情報活用能力の育成」を研究テーマとして取り組む。 ・GIGAスクール構想で必要とする能力を身に付ける指導を行う。
6	II 学力向上	確かな学力の育成	言語活動の充実によるコミュニケーション能力の育成	各教科、特別活動で計画的に言語活動を取り入れ、主体的、対話的で深い学びを実践し、コミュニケーション能力の向上を目標とする。	各教科、特別活動で計画的に言語活動を取り入れ、考えをまとめ、分かりやすく説明する力や他者の考えを理解し自分の意見を深めるためのコミュニケーション能力の向上を図る。	・根拠に基づいて自分の考えをまとめる授業を各教科で行う。 ・自分の考えをもち、他者との意見交換をもち深める授業を行う。 ・文章で自分の考えを表現する授業を行う。	生徒アンケートで、「授業は分かりやすい」「自分の考えをもつことができた」と肯定的な回答を80%以上とする。	3	・少人数 授業は分かりやすい 87.3% ・説明は聞き取りやすい 95.6% ・自分の考えをもつ 83.2%	3	・中央中学校のいじめ件数の報告が10件あると聞き驚いている。子どもからの情報は伝わっていない。	・分かりやすい授業を行う。また、一方向の授業ではなく、生徒が主体となる授業に改善する。
7	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	・発達の特性により不登校につながらないように、生徒理解をすすめる体制を築く。 ・特別支援学級と通常学級の生徒が互いに理解し合い、偏見や差別のない学校生活を築くことを目標とする。	・発達の特性により不登校につながらないように、生徒理解をすすめる体制を築く。 ・中央委員会を中心に保護者の意向を知る機会を増やし、学校経営に反映する。	月2回の校内委員会の開催により支援を充実させる。 ・特別支援学級と通常学級の交流を、運動会、校外学習、宿泊学習において充実させる。	・月2回以上の校内委員会を開催できたか。 ・生徒のアンケートで「特別支援学級の生徒との交流で違いを認め合う意識が高まった」とする回答を80%以上とする。	4	・校内委員会は開催できた100% ・交流による理解 73.7%	4	・曖昧なルールについて保護者の声を反映させてほしい。	・特別な支援という、「支援される側」「支援する側」という意識ではなく、「互いが助け合う」「互いが高め合う」集団作りを行う。 ・校内委員会は定例として着実にやっていく。 ・7組との交流活動を今年度+1を目指し活動する。
8	III 教育環境の整備	安全・安心な学校づくり	学校評価に基づく学校経営の継続的な改善	防災教育、避難訓練、感染症対策、熱中症対策などの安全指導により、生徒の命を守る。そのために保護者との連携を密にし、家庭と一体となり教育活動をすすめる。	・保護者へ通知、保護者の期待していることを理解し、教育活動をすすめる体制を築く。 ・中央委員会を中心に保護者の意向を知る機会を増やし、学校経営に反映する。	・学校事故、けが、緊急対応が必要な場合はもちろんのこと些細なことも保護者と情報を共有する。 ・学校評価アンケートを教育活動に反映し、一体感をつくる。	保護者アンケートで、学校の様子きめ細かく保護者の伝えられていると肯定的な回答を60%以上とする。	4	・保護者に伝えている 94.2%	4	・授業がわかりにくい教科があると聴いている。対応をお願いしたい。	・ホームページ、学校だより、学年だより、メールの配信を通じて、保護者が学校の様子を知る機会を増やす。
9	オリンピック・パラリンピックの精神を生かした教育の充実	体験的な活動	体験的な活動	オリンピック・パラリンピックへ引き続き興味を持続させ、身近なものと感じられることを目標とする。	パラリンピック観戦を通して、スポーツの興味関心を高める。国際理解教育を通して、生徒に国際性を身に付けさせる。	・聖火リレーの応援 ・国際理解教育の充実 ・アスリートの講演会	講演や体験活動、交流を通し、オリンピック・パラリンピックに興味をもたせ、アンケートで肯定的な回答を80%以上とする。	2	・保護者の評価 74.0% ・生徒の評価 72.7%	2	・不登校生徒の対応について、学校だけではなく、外部機関と連携し支援を受けることが必要である。	・東京2020大会レガシーとして「ボランティアマインド」の資質向上を目指し、生徒会主催の「花いっぱい運動」「青少協と共同ボランティア活動」「日本一の挨拶」に取り組む。
10	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	ライフ・ワーク・バランスの改善	職員会議の効率化を図り、時間外勤務を減少させることで一月45時間超の職員を減少させ、ライフ・ワーク・バランスへの満足度を上昇させることを目標とする。	職員会議の議題への周知な事前準備と企画会議での十分な検討により職員会議の時短を図る。	・職員会議の1時間以内90% ・時間外勤務一月45時間超人員 ・週1日、さらに定期考査前の定時退勤デーの推進	ライフ・ワーク・バランスへの満足度70%以上とする。	3	・教員アンケート 90%	3	・教員の心と体の安定が、良い教育につながる。部活動は、部活動ガイドラインに沿って行う。また、行事の運営等分担を適正に行い、仕事の偏りをできる限りなくしていく。	